

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	「住み慣れた地域で自分らしく安心して過ごせるよう生活（介護）をお手伝いします。」 の理念のもと、各々がその人らしい生活が継続できるよう小規模多機能の特性を生かした 支援に努めています。人に優しい町（まち）づくりの考えが、地域に根（ね）を張り、 広がっていくようにとの願いを込め、月1回「まちなね」活動を開催しています。
事業所名	こぶし園 小規模多 機能型居宅介護三和	管理者	渡邊 真貴子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	1人	1人	人	3人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員との関わりを継続し、地域の情報収集を行っていきと共に、事業所を認知してもらう為の情報発信を行っていく。 	<p>民生委員さんとの関わりを継続的に持つことができ、活動への参加もして頂けた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の関わりの中から得た情報や様子、気づきをミーティング等で情報共有し支援に活かしていることがわかった。 地域性もあるが、地域との関わりが課題と感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「事業所自己評価」より、地域との関わり、協働の点が課題であることがみえたことから、民生員の方の集会へ参加する等、地域との関係を深めていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> インターホンやエレベーター等の案内表示を分かりやすい物に変更し、来所した方が入りやすい様工夫する。 	<p>玄関のレイアウトを変更し、エレベーターの位置がわかる様案内表示を作成した。インターホンを押して下さる来客者が増えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> オープンにし過ぎると防犯面で心配があるため現状位で良いのではないか。 「エレベーターはこちらです」といったような案内板があり分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 来客者が戸惑うことなく職員を呼べるようインターホンの案内等を分かりやすいものに変更する等、玄関や敷地内の環境整備を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、民生委員との関わりを持ち、継続して地域の情報収集を行っていく。 地域の方に近所に施設があることを知ってもらう。サポートセンターの紹介を作成し、地域へ回覧板で回したり、まちなねの案内と一緒に配布して施設を知ってもらう。 	<p>民生委員さんに広報紙、地域活動の案内を配布して関わりを深められるよう努めることができた。しかし、地域の方々に施設の存在は知られていない模様。まちなねの案内は回覧できていたが、サポートセンターの紹介を作成できていなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 三和地区の住民性も関係している。三和地区の方々是人付き合いもあまりなく、マンションやアパートが増えてきており、若い人が多い。関心がなく興味を持っていない人が多いため、事業所を知らない人が多い。 民生委員へ地域住民から心配し相談に来られても、本人は「ほっといてくれ」と閉ざしてしまうと何もできない。何かあれば包括支援センターへ繋いでいる。 年代関係なく困りごとについての相談が多く、何かあれば包括支援センターか市役所へ相談に行くという方が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の取り組み、行事等の発信を通し、事業所の存在を地域に広められるよう広報誌、まちなね、行事等の案内の回覧を継続していく。

			<ul style="list-style-type: none"> ・行事は少なく、クリーン作戦に参加していれば十分だと思う。地域の方もなかなか協力的ではない。 	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ともしび祭りやサポートセンター千手の行事にも参加して行く。 ・三和・左近地域のお祭りに利用者と共に参加する。 ・民生委員から手助けを必要としている方がいないか等情報収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ともしび祭りやサポートセンター千手の行事や三和のお祭りへ参加できた。民生委員さんへは、ボランティアに来て頂いたり、まちのねに参加して頂くことがあり顔なじみの関係になってきていると感じる。配布物を持参した時など情報収集するように心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば認知症の方が地域で暮らしていけるよう事業所としてできることは何か、事業所が社会資源になれるよう協力していきたい。訪問や送迎時等で、心配な方はいないか意識しながら支援していきたい。 ・地域住民から事業所に介護相談があった場合は、地域包括センターへ繋げてもらって良いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員として、登録者の方だけでなく地域に目を配り、訪問や送迎等で心配な方がいないか意識していき、必要に応じて支援をしていく中で、民生員の方等関連機関との情報交換も継続していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で、地域の情報収集し、必要に応じて事例検討や地域での取り組みを検討して行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議内での事例検討や地域の取り組みについて検討までには至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で心配な方がいる場合は、包括支援センターに繋げることが多い。 ・日々、地域を注意深く見ていく中で、心配な方がいられた場合は一緒に検討していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方等との情報交換を継続し、地域の困りごと、ニーズの把握に努める。 ・全ての職員が運営推進会議に参加できる機会を設け、地域との繋がりについて考えを深める。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防災訓練の案内や、災害時の受け入れが可能であることを地域へ回覧板を使って情報発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の案内はしたが、地域の方の参加はなかった。 ・各サポートセンターごとに防災計画が作成されている。今年7月の大雨による避難勧告が出た際は、ユニバーサルハイツ平島入居者はサポートセンター深沢へ、ユニバーサルハイツ三和入居者には、2階へ避難してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議日に合わせて防災訓練が実施され参加した。防災計画書もしっかり作成しており福祉避難所として頼りになると思う。 ・サポートセンター千手や摂田屋の近隣サポートセンターとも協力体制が整っている。事業所と地域がお互いに助け合っていけたら良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙を利用し、防災訓練、福祉避難所であることの発信を行っていくことで、地域の方に広く知って頂く。